

学部新卒学生による「模擬授業検討会」の試み



三重大学教職大学院の「中核科目」である「地域の教育課題解決演習」。毎年後期には、同科目を受講する学部新卒学生(1年生)とともに「模擬授業検討会」を実施しています。「附属校実習で行う授業」と「自分の学修テーマに関する授業」という2種類の授業を受講生全員が「授業者」となって実践していきます。

この「模擬授業検討会」で大切にしていることがあります。それは…

- * 「授業者」以外は皆、「学習者」として参加する
- * いま、ここで起こった「学習者」としての”感情を授業者に伝える
- * 「助言・指導」はしない

模擬授業を受けると、すぐに「こう変えればうまくいくよ」などと「アドバイス」したくなります。もちろん、そうした「助言・指導」の場も大切です。しかし一方で、それだけでいいのかとも考えます。院生たちには、「授業者」として「いま、ここで」起こったことを「学習者の姿」からしっかりとらえ、そこから次どう改善していけばいいのか、それ自体を「受け身」でなく自ら考えられるようになってほしいのです。

また、単純に、「教員」という立場のひとから自分の授業を見られる際には大きなプレッシャーも…。この「模擬授業検討会」では、「授業者」以外は皆、「学習者」という対等な立場から参加します。本当は自分の指導教員なのに、模擬授業中は「はい、〇〇さん」と指名したりします(笑)。「教える」「教えられる」という関係を崩したところに生まれる気づきを大切にしています。そして、すぐに答えがもらえない“もやもや”との闘い、そしてすぐに答えを言ってあげられない“歯がゆさ”との闘いは続きます。



院生の声 —「模擬授業検討会」を体験して—

実際に授業をしてみることで、「子どもたちに伝わりやすい発問」の難しさを痛感しました。自身では伝わりやすく、分かりやすい発問だと思っていても授業を受ける学習者にとっては分かりづらいことは多々あることだと思います。模擬授業検討会では、大学の先生方や同じ5期生のメンバーが学習者の目線でそういった点を伝えてくれるので、自分では気づかなかったことに気づかせてくれます。また、電子黒板を活用した授業も構想できるので、より現場を意識した模擬授業をすることができ自身の成長にもつながっていると実感しています。(5期生・橋本銀司さん)

模擬授業検討会を通して、授業者・学習者のどちらの立場であっても、自分の思考が可視化されていくことを実感しました。私たちは授業を作る際に、自然とその学級の平均値に合わせていたり、これまでの経験からおそらくここで躓くだろう、と考えています。しかし、授業者として学習者の意見を聞くと思わなかった意見が出ることや、学習者の立場で模擬授業を受けると何気ない授業者の言葉の意味が理解できなかったりします。こうした体験は、改めて自分が何を基準にして授業を考えているかを明白にしてくれるなど感じました。(5期生・森山翔さん)

教員からみた「模擬授業検討会」

今年度より教職大学院の専任教員となった先生がたに、「模擬授業検討会」に参加して感じたことを聞いてみました！

吉本 敏子 先生

「模擬授業を参観した場合には助言をしなければならない」という思い込みを覆され、楽しく参加させていただいています。助言型の検討会の場合は、授業者は先に授業の問題点と改善の方向性を示されてしまいますが、この模擬授業検討会では、参加者が学習者の立場で感じたことを言葉にして語りあうので、そこからなぜそうなったのか、どうすればよいかを、授業者自らがじっくり考えられるよい機会になっています。授業の善し悪しが児童・生徒の姿に具現化されていることを、改めて思い出させてくれる良い機会になると思います。

守田 庸一 先生

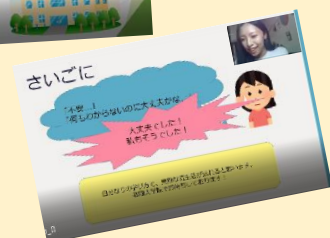
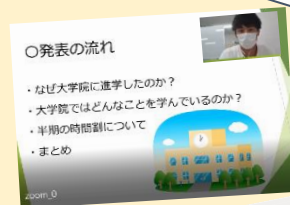
授業を見ていて、「今あの子は何を考えているんだろうな」と想像することがよくあります。模擬授業検討会は、そうした「あの子」に自分になれる場です。たとえば参加した社会科の模擬授業で、「駅の周りって何があったかな？」という発問に対して私は「パン屋」と答えました。それが自らの見た具体的な駅前景色であり、授業を通じてその認識の抽象化を促されました。学習者になることで学びを実感することができます。「助言・指導」とは無縁の立場で、一人の学習者として教室に居られるのは楽しく幸せなことだと思います。

学部生むけ座談会 を開催しました

令和3年9月17日、「学部生むけ座談会」をオンラインにて開催しました。この会は三重大学教職大学院ができて初の試み。三重大学教育学部の学生の皆さんのみならず、生物資源学部など教育学部以外の学生のかたや、そして他大学の学生のかたにも多くご参加いただくことができました。

座談会の目玉は、なんといっても「在籍院生のおはなし」。院生2人が、なぜ教職大学院に進学しようと思ったのか、教職大学院でどんなことを学んでいるのか、授業や実習はどんな感じか、授業のない時間帯はどんなことをしているのか、教職大学院に進学してよかったと思うことや大変だと思うことは何か、等々、「院生」目線から三重大学教職大学院の魅力をつぶりお話いただきました。

まだまだ知名度には課題のある「教職大学院」ですが、少しでも学部生の皆さんに身近に感じていただき、進路選択の1つとして考えていただけるよう、これからもPRを続けていきます。



長期実習、進行中!

「経営力開発分野」「教科教育高度化分野」に在籍する現職教員学生は、1年目のこの期間に、「東紀州実習」と「連携校実習」という2種類の長期実習に、それぞれ10日間行くことになっています。また、学部新卒学生等の場合も、2年目のこの期間に「東紀州実習」があります（2022年度より希望制）。

いわゆる学部生が行く「教育実習」とは異なる、教職大学院の「長期実習」。

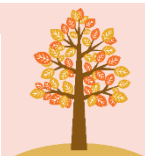
現職教員学生にとっては、「実習生」という立場はどこか懐かしく、また新鮮さを感じるものであると同時に、教員として経験を積んできたからこそみえてくる「地域や学校の特色」に気づき省察する貴重な機会となっているようです。

また、ある学部新卒学生は、東紀州実習終了後、地域ぐるみでおこなう実習校の運動会に参加させていただいた体験を語りにきてくれました。学校は地域といかにかかわっているのか、学校が地域のなかにあるということはどういうことなのか、など、「教育」の深いところまで掘り下げて考えるための視点を多くいただけてきたようです。

次号では、「長期実習特集」をお届けする予定です。院生たちが長期実習からどのようなことを学んできたのか、院生の声とともにお伝えします!



教職大学院で一緒に学びませんか??



三重大学教職大学院では、入学をお考えのかたのための「個別相談」を随時受け付けています。「入試説明会」や「座談会」等に参加できなかったかた、参加したけれど個別で何か相談したいことがあるかた、相談いただけます!

ご希望のかたは、下記に記載されている「入試広報部会」のメールアドレスまでご連絡ください。お気軽にどうぞ!

**** 入試の詳細は、募集要項、本学のホームページなどをご覧ください ****

編集・発行 三重大学大学院教育学研究科 教職実践高度化専攻(教職大学院) 入試広報部会

〒514-8507 三重県津市栗真町屋町1577 ☎ info-mkd@edu.mie-u.ac.jp

三重大学教育学部・教育学研究科ホームページ <https://www.edu.mie-u.ac.jp/>